

# 青年招へい事業

中国

[交流レポート]

# 青年邀请计划

中国

[交流报告书]

JICA LIBRARY



1188638 [9]

2001

国際協力事業団

国内研

J R

---

青年邀请计划 —中国—[交流报告书](2001)

2002年3月31日

发行 国际协力事业团国内事业部 研修业务课  
〒151-8558 東京都涩谷区代々木2丁目1-1  
新宿MAYNDS TOWER  
电话 (03) 5352-5401~3

编辑 财团法人 日本国际协力中心 国际交流部  
〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井大楼内  
电话 (03) 5322-2571

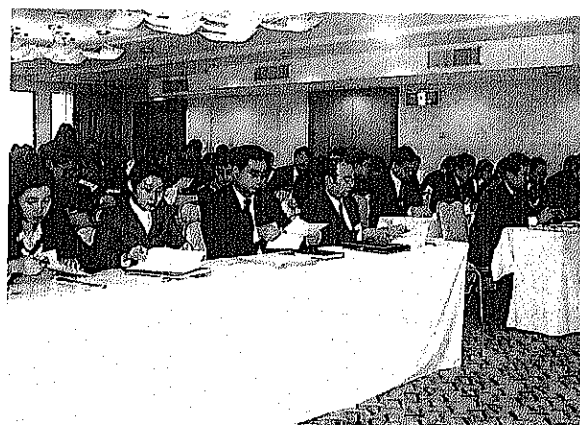
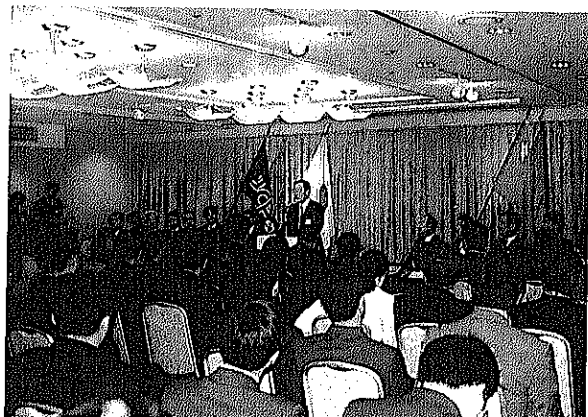
---

未经许可不许转载。

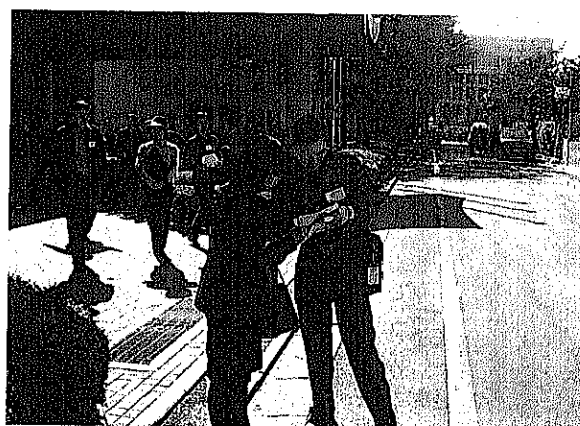
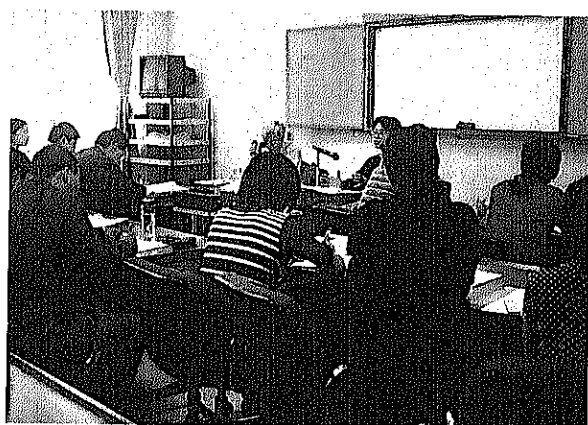




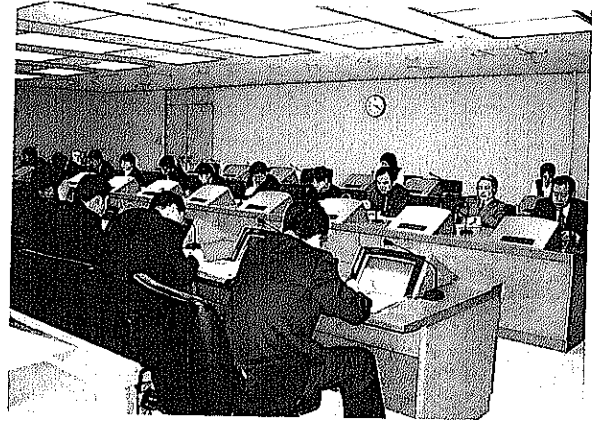
## 開講式／开幕式



## 共通プログラム／共同活动



## 分野別都内プログラム／分団都内活動



## 合宿セミナー／合宿研究会



1188638 [9]

## 分野別地方プログラム／分団地方活動



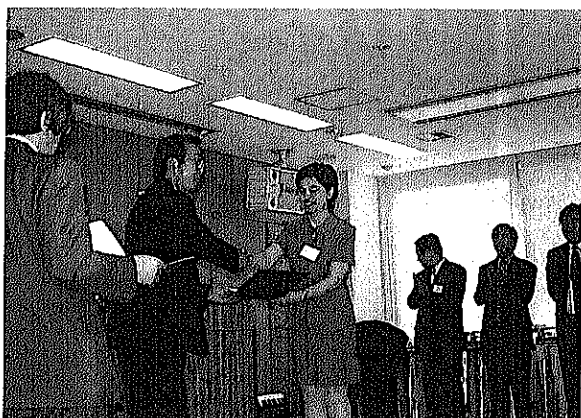
## ホームステイ／民宿活動



## 見学旅行／参观旅行



## 閉講式・歡送会／闭幕式・欢送会





# 青年招へい事業

## 青年邀请计划

日本語編・日语篇 .....	3
中国語編・中文篇 .....	45



# 青年招へい事業



## はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団(JICA)が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約1カ月間招へいし、それぞれの専門分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン6カ国のみでしたが、現在は123カ国・地域以上にまで拡大し、昭和59年度に事業を開始して以来、18年間で日本を訪問した青年は23,256名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成14年3月

国際協力事業団  
国内事業部  
部長 今津 武



# 目 次

## はじめに

### I. 新日中青年の友情計画

#### 1. 新日中青年の友情計画

1-1 概要	11
1-2 招へい実績	12
2. 招へい青年の印象	13
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	15
4. ホストファミリーの思い出	17
5. 実施協力団体の所感	19

### II. 新中国実務者招へい計画

#### 1. 新中国実務者招へい計画

1-1 概要	23
1-2 招へい実績	24
2. 招へい青年の印象	25
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	27
4. ホストファミリーの思い出	29
5. 実施協力団体の所感	31

### III. 中国初等中等青年教員招へい計画

#### 1. 中国初等中等青年招へい計画

1-1 概要	35
1-2 招へい実績	36
2. 招へい青年の印象	37
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	39
4. ホストファミリーの思い出	41
5. 実施協力団体の所感	43





# I . 新日中青年の友情計画



# 1. 新日中青年の友情計画

## 1-1 概要

### (1) 目的

「新日中青年の友情計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、21世紀に向けて、より良き未来と平和と繁栄を分かち合うために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### (2) 実施方法

#### ア 招へい人数

100名

#### イ 招へい対象者

以下の分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

##### (ア) 青年指導者 25名

青少年活動及び関係者、大学職員、公務員、通訳。

##### (イ) 経済青年 25名

企業等役員・勤労者、公務員、団体職員、ジャーナリスト、経済学者。

##### (ウ) 公務員 25名

他の分野に該当しない一般公務員、団体職員。

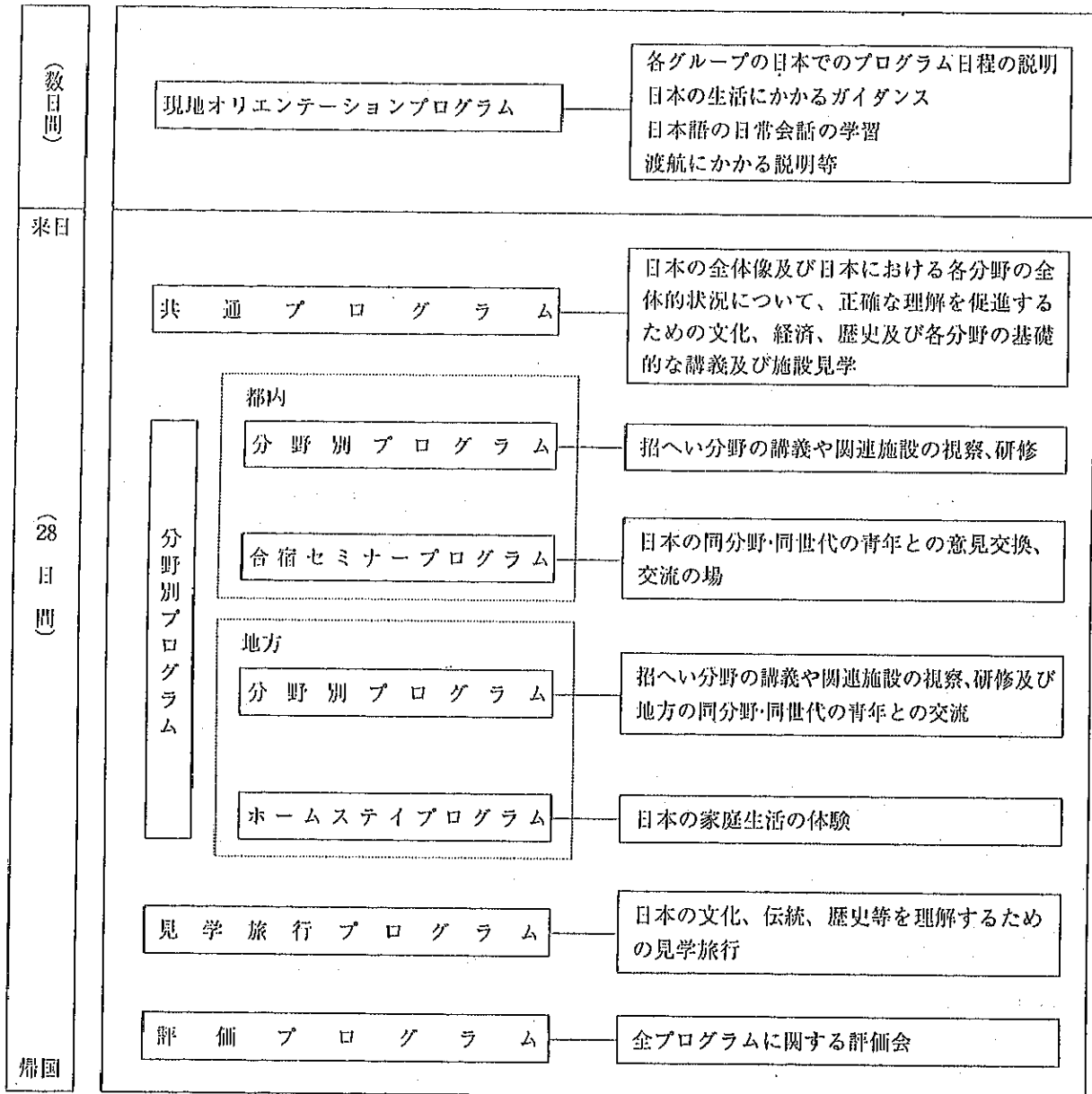
##### (エ) 教員 25名

教育関係公務員、教育関係団体教員。

#### ウ 招へい期間

5月16日から6月12日までの28日間。

### (3) プログラム概要



### 1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	24	(社)青少年育成国民会議	高知	高知希望工程基金会
経済青年	25	(財)日本友愛青年協会	新潟	新潟県青年海外協力協会
公務員	25	(社)日本中国友好協会	富山	とやま国際センター
教員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

\*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

## 2. 招へい青年の印象

### 模擬体験の感想

葉 衛紅  
(青年指導者グループ)

日本には高齢者や障害者のための施設があり、多くの日本人が自発的かつ熱心にこのような社会的弱者の手助けをしているのが至る所で見られる。

私は、高知県NPOボランティアセンターを訪問した時にその理由を知ることができた。NPOボランティアセンターで私は、ボランティアの方と80歳のお年寄りのつらさを身をもって体験したのだ。目はかすみ、手足が思うように動かず身体も重い。その時私は、その大変さを知ると同時に、身体に障害があることの苦しみがわが事のように感じられた。

これからは、町中で思うように歩けないお年寄りを見かけたら、必ず声をかけ、すすんで手を取るよう、努めたいと思っている。また、普段の生活においても体の不自由な方の心の内をより察することができるだろうとも思った。

このような方のために自分ができることとしてゆく、これが体験的教育の影響力というものなのではないだろうか。

高齢者や障害者の模擬体験により、人々はより命を尊び、他人を思いやり、社会へ貢献してゆくようになるのだ。

### 私が見た日本

周 玉超  
(経済青年グループ)

日本人の歩くスピードは速く、地下鉄や新幹線などの到着時間と停車位置は極めて正確である。乗降車にかかる時間はわずか1、2分だ。このことは日本人が仕事や生活において一定の枠に押し込められている、と同時に日本社会が秩序よい効率的な社会であることを反映している。

また各企業は環境保全に大いに力を入れ、多くの資金を投入しており、各地方の行政も積極的に環境対策に取り組んでいるが、これは日本企業の環境保護に対する意識が高いことを反映している。

企業訪問や見学の際、担当者のもじめな、マニュアルに沿った仕事ぶりを見て、日本企業の従業員の強いプロ意識と集団意識を感じた。

日本訪問中には、外貨の両替が不便なことや通信設備が海外の通信システムと互換性がないことなどから、世界経済一体化の中、日本の孤立性や日本人の保守的考え方が見えたように思うこともあった。

帰国後は、日本人の生活慣習や集団意識と環境に対する関心の高さを大いに周りの知人に紹介したい。

## 歓迎の横断幕と海辺の砂

郭 東星  
(公務員グループ)

今回の訪日には忘れがたい出来事がたくさんあるが、中でも「横断幕」と「海辺の砂」は日中友好のあかしとしていつまでも私の心に残る。あづさとみづきはホームステイした家の2人の可愛いお嬢ちゃんである。歓迎会で2人が「熱烈歓迎」の心のこもった横断幕を掲げ、更に別れの駅のホームでは「郭東星さん、ありがとう！さようなら！」の横断幕を掲げたのを見て、胸がじんとし、まるでそれが日中友好の旗のように思えた。日本人の中国人に対する友好的な気持ちを肌で感じ取った。ホームステイの2日間をホストファミリーと一緒に和気藹々と過ごした。別れは名残惜しい。記念品を数多くいただいたが、中でも私が大の海好きと知ったホストファミリーの家城昭博夫妻はわざわざ車を走らせ海辺で砂を拾って、小瓶に詰め、きれいに包装して持たせてくれた。砂の小瓶を手に、私は大感激した。これはただの砂ではない、日本の友人の熱い気持ちだ。日中友好が世代代続いていくであろうことを海は証言してくれる！

## 日本紀行

楊 金花  
(教員グループ)

20数日間の日本訪問は、行程は慌ただしく、言葉の面でも障害があったが、大変多くの美しい思い出と深い印象を残した。このたびの日本紀行を通じて、感じたことを述べてみたい。

日本人そして日本社会についても更なる理解を得られたと感じている。

日本は経済が非常に発展しているだけでなく、自然環境も大変美しい。

日本人は勤勉で何事も効率よく行い、団結の精神を大切にしている。このことは私に日本人の精神を垣間見せてくれた。

交通も発展しており、外出も非常に便利で快適であると感じた。

また、日本人はおしなべて高度な教育を受けており、この点においては都市と農村の差はほとんど見られず、人々の文化レベルも高い。資源に乏しい島国として、人々の環境に対する意識は非常に高く、ごみの分別収集を通じて、小さい頃から子供に環境保全への意識を養うという手法は、中国人も学ぶべき点であると感じた。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 地球上の同胞として

椎 卓也  
(会社員：経済青年グループ)

軽井沢での合宿セミナーは、躍動し発展する中国の勢いを肌で感じた3日間だった。経済グループということで、国家体制の違いから「頭でっかち」の議論になるかと心配していたが、さすがは中国の社会主義市場経済界の若きリーダーたちだけあって、物腰やわらかく、明るくて、開放的なお付き合いができた。

合宿セミナー初日の「一緒に餃子を作る」体験は、彼らの文化の奥深さや繊細さと同時に大胆さを感じて余りあった。グループディスカッションと併せて「近くて遠い国」と感じていた中国を「身近な兄弟のような人々の国」と感じるようになった。私はこのような交流が進めば、様々な摩擦や、過去の歴史を乗り越え、真に「地球上の同胞」として仲良くできるのではないかと確信するに至った。

いい仲間ができた。いい経験だった。

#### 中国公務員との合宿セミナーに参加して

山本 実  
(地方公務員：公務員グループ)

公務員の給与、待遇、環境問題など、事前にテーマが設定されていた公務員グループの合宿セミナーに参加して、日本の公務員と中国の公務員がともに活発な意見交換をできたことは、非常に有意義な経験だった。しかしテーマによっては、私たちが地方公務員であるがゆえに、中国側の皆さんの意向に沿った意見交換ができないこともあったが、あくまでも友好的に過ごすことができたと思う。

限られた時間の中で、施設見学、歓迎パーティーと忙しく駆け回ったことも、いい思い出となった。今回の交流をつづったアルバムを帰国間際の空港で、中国の皆さん全員に渡すことができたこと、またそのお礼の手紙をいただいたことは、私にとって非常に感動的な思い出となった。

今回の青年招へい事業に際して、通訳や歓迎パーティーの準備など、陰でご尽力いただいた関係者の皆様には、改めてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。





## 4. ホストファミリーの思い出

### 素晴らしき出会い

北村 智江

(高知県：青年指導者グループ)

わが家のゲストは潘雪紅さんという広西壮族自治区の青年リーダーだった。向学心旺盛で聡明、そのうえ積極的という彼女の魅力に、私たち家族もすっかり打ち解け、土曜日には近所の小学校に出かけて、中国の民族舞踊や子供の遊びをみんなで楽しんだ。

「太平洋の魚は大きいの？」

よし、高知新港で釣りでもするか。

「この果物は見たことがないね」

うーん、これは日曜市だな。

こんな具合で主人や長男も絶好調！ その成果はわが家の自信となり、交流会の宴席でも歌や舞踊の披露となって発揮された。

夜遅くまで写真や筆談で故郷の様子を教えてもらったり、魚料理を「おいしい」と笑顔で言ってくれた彼女との時間が、61億分の1粒の幸運な出会いとして一生の思い出となった。

出発の朝、潘さんは、家中、浴室までビデオ撮影。中国では、「これが日本の庶民の家です」なんて紹介されるのかな、と、少し焦りつつ、いつかは素晴らしい彼女を生み育んだ大地に立って、一緒にこの目で中国を見てみたいと、家族で今も夢を見続けている。

### 我高兴极了（タノシカッタデス）

大塚 昌彦

(滋賀県：教員グループ)

新日中青年の友情計画による教員グループの一員として来日し、わが家にホームステイしたのは牙韓高さんだった。言葉や習慣の違いに不安があったものの、牙さんの温かい人柄に接し、生涯忘れられない出会いとなった。特に牙さんが私の両親に敬意を払って接する姿を見て、私たちが忘れてかけていた大切な心を思い出させてくれた。

牙さんは音楽の先生ということで、牙さんのピアノ演奏で家族みんなで歌った赤とんぼや四季のうたは、思い出の歌となった。

お別れパーティーの時は、子供たちももっと一緒にいたいと泣き出し、抱き合って別れを惜しんだ。今、わが家では牙さんの住む中国は最も親しくて近い外国であり、行ってみたい国になった。

牙さんとの筆談での文字、「我高兴极了」と、片言の日本語で話した「タノシカッタデス」が、今も印象深く残っている。

牙さん、お元気で。またお会いしましょう。再見。そして、我高兴极了!!



## 5. 実施協力団体の所感

### 日中友好的典範

前田 正也

(高知希望工程基金会：青年指導者グループ)

「日中友好的典範」（日中友好の規範）。最後の夜、孫守剛総団長からいただいた、生涯忘れることのできないうれしい評価と励ましの言葉だ。

今回の青年には、「相互に学び合おう」という趣旨から、小学校での一日先生や女子大学での若者文化についての意見交換をお願いしていた。また環境問題では、工科大学でのJICA水資源管理研修コースを視察し、日本最後の清流・四万十川の環境河川対策（四万十方式）の手法を共に学習した。

訪問学校での熱烈歓迎や文化交流、福祉施設での老人との交流体験や企業視察、どれも青年たちにとっては新鮮な驚きと出会いのドラマであった。そして異国で感動を覚えて大切な人生の一場面であったに違いない。

だが、私たちと青年を一生の友人に結びつけたのは「私たちは日本人として、過ちを認める勇気を持ち、恩に感謝する歴史認識に立って、両国の優良文化の交流を熱望している」という素直なメッセージと、地道に続けている中国の子供たちへの教育援助活動だった。

現在、本事業に参加した青年と協力して青海省草原村で希望小学校の建設を行っている。もうすぐ草原村の子供たちの笑顔に会えるところだ。これも本事業での出会いとお互いの信頼関係があってこそできる活動だと感謝している。

地方の受け入れ団体の顔は様々だ。共通していることは、地方での交流と一体となった研修を通して、触れ合った両国の青年の心に21世紀の友情という橋がかかっていることだろう。これからも、この21世紀の友情という橋を渡って、新しい日中青年交流の歴史を刻んでいきたいと思っている。孫守剛総団長の言葉を心の支えとして、そして皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに……。

### 新しい出会いの1週間

藤木 猛

(滋賀県青年団体連合会：教員グループ)

5月30日。期待に胸躍らせつつ出迎えた中国からの一行25人。思った以上に皆さん元気においでくださった。中国湖南省と姉妹提携を結んでいることもあり、知事も今まで以上の歓迎ぶり。歓迎パーティーでは、このあとお世話になるホストファミリーの皆さんも多数駆けつけてくださり、滋賀県でのプログラムが始まった。

滋賀県の教育について知ってもらおうと、様々な機関や小中学校を訪問した。特に、教職員研修機関である総合教育センターでは、教員の資質向上のためのプログラムや、設備に質問が殺到した。その真剣さに説明員も自然と熱が入っていた。

ホームステイでは本当の家族の一員になったように、日本の家庭を満喫し、別れを惜しむ姿がとても印象的だった。同じアジアの一員として、同じ目線で、心から関わることの大切さ、日本が忘れか

けている自らの国を背負っていくという取り組みの姿勢に、新たな感動を覚え、今度は中国で再会することを約束して、見送ることになった。

## Ⅱ. 新中国実務者招へい計画



# 1. 新中国実務者招へい計画

## 1-1 概要

### (1) 目的

「新中国実務者招へい計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### (2) 実施方法

#### ア 招へい人数

100名

#### イ 招へい対象者

以下の分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

##### (ア) 人材育成 25名

公務員、教員、団体職員、ジャーナリスト、等。

##### (イ) 経済開発 25名

経済関係公務員、企業関係者、等。

##### (ウ) 地域振興 25名

省・自治区政府の地域開発関係者、団体職員、等。

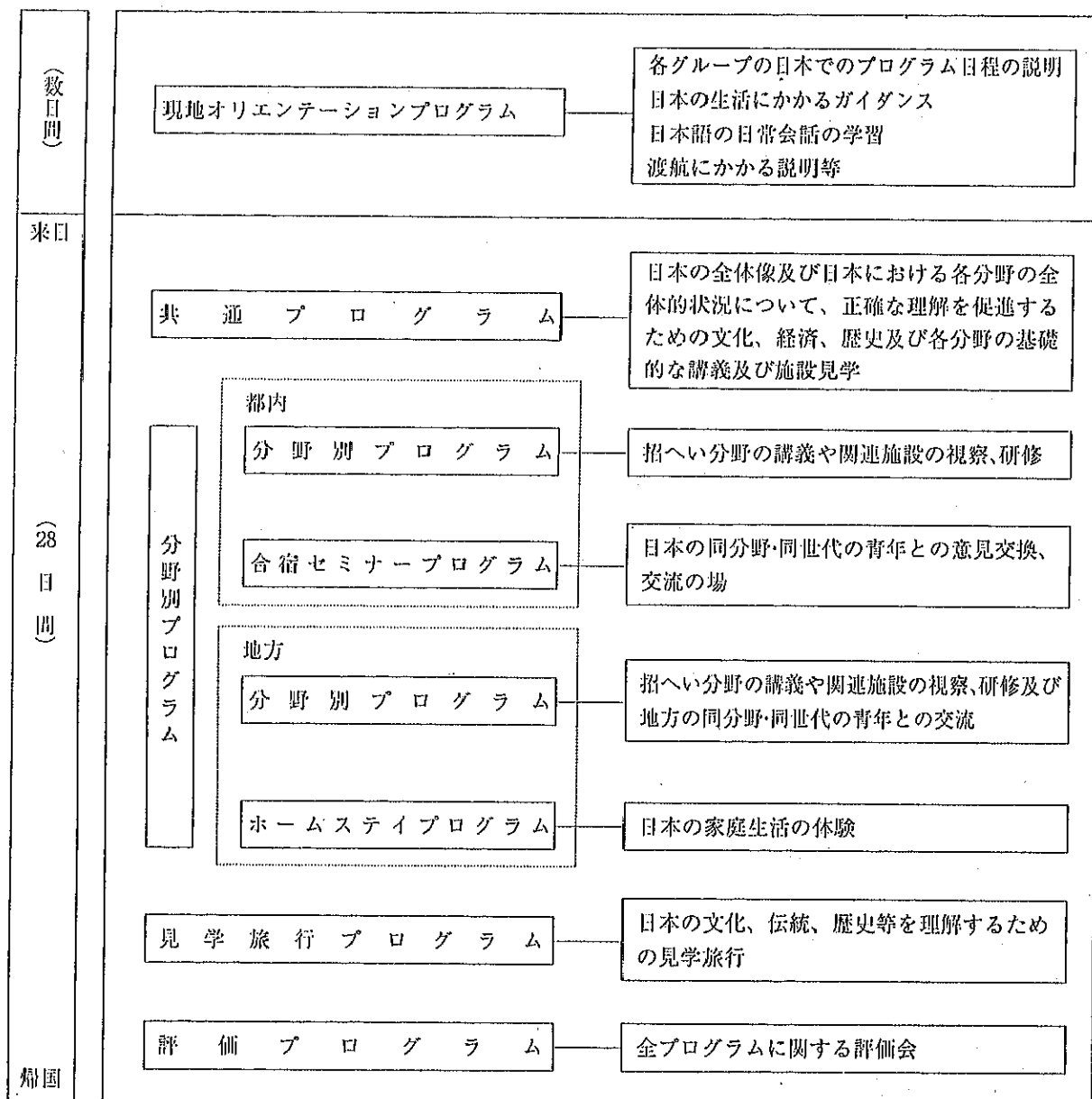
##### (エ) 産業基盤整備 25名

国家計画、建設、貿易・財政関係公務員、等。

#### ウ 招へい期間

10月17日から11月13日までの28日間。

### (3) プログラム概要



### 1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都府県	地方実施協力団体
人材育成	25	(財)日本ユースホステル協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
経済開発	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	群馬	(財)群馬県国際交流協会
地域振興	25	(社)青少年育成国民会議	鳥取	とっとり青友会
産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	徳島	徳島県日中青年交流協会

\* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。



## 2. 招へい青年の印象

### 平和と友好は日中共通の願い

賈 徳忠  
(人材育成グループ)

日本の各教育機関の経費は主に政府から支給されており、これは教育立国である重要な表れである。厳格な公務員採用制度、整備された全日制教育システム、企業内研修及び職業能力開発メカニズムは行政管理と経済開発に人材を確実に供給している。NHKの教育チャンネルや平和祈念公園の絶えることのない人波は、効果的な社会教育が行われていることの表れである。

中日両国が共に漢字を用い、多くの似通った文化や習わしを有していることは、両国人民の伝統的な友情を物語っている。ホームステイや合宿はこのような家族にも似た親しい気持ちを一層深めてくれた。平和、友好、交流そして発展は中日両国人民の、特に両国青年の共通の願いなのだ。

### 教育を重視し、伝統を尊重する

潘 燕  
(経済開発グループ)

日本の経済力が世界第2位ということは早くから知っていたが、にぎやかで近代化された東京は私の想像をはるかに超えたものだった。このように物質的に発達した成果は決して戦後50～60年でなし得たことではないと思う。千数百年にわたる民族の、勤勉でまきめで忍耐強い性格が積み重なって築いたものであり、明治維新以後、教育を重視し、国土が狭く資源が乏しかったため、この国は人間の価値を最大限に発揮させた。そしてたぐい稀な経済の奇跡を作り上げ、世界から賞賛を浴びた。

日本人の、民族の伝統に対する愛着とこだわりは私に深い印象を残した。草履を履いて晴れやかな着物姿で銀座や高層ビルの間を歩く様子は少しも違和感がなく、その自然さに感動を覚えた。この自然さこそが人と人との間の礼儀正しさや自然に古い儀式や伝統に対する尊重になって表れ、このように和やかな調和がとれているのだと思う。

### 橋渡し

呉 競  
(地域振興グループ)

「橋渡し」——この言葉はホームステイでお世話になったご家庭の“お母さん”が教えてくださった日本語である。“お母さん”に書道を習っていた時のこと、私とその3文字を書き終えると、“お母さん”は微笑みながら英語でその意味を説明してくれた。

「中国人と日本人、あなたとこの原家の家族との心と心の交流、つまり長く付き合える友人になること、それが日中両国の橋渡しになるということよ」

日本に滞在した1カ月の間、日本人の友好的で真摯な態度には深い印象を覚えたが、特に鳥取県米子市でホームステイをした2泊3日は私の生涯の貴重な一頁になった。原さんのご一家4人、どの方

も誠意に満ち、本当に温かい心の持ち主であった。短い滞在ではあったが、そのようなご一家と家族のように親しく過ごした時間は、私の一生忘れ得ぬ思い出である。中日両国の人々がいつまでも良き隣人、良き友人であるよう心から願いたい。

## 佐藤老人

張 黎華  
(産業基盤整備グループ)

四国大学を訪問した時、私たちは矍鑠とした小柄な老婦人と出会った。彼女は80歳になる四国大学の佐藤理事長である。代表団のための昼食会の席で、彼女は感情を込めて「私は数十年前、日本が中国に対して犯した過ちについて深くお詫び申し上げたい……」と語った。話しているうちに佐藤さんの目が潤み、涙が浮んできた。私たちはこの話に深く心を打たれた。普通の日本人で、しかも中国侵略の戦争とは無関係の一人の女性が中国人にこんな深い贖罪の念を抱いているとは。過去の戦争は中日両国人民に癒しがたい傷を残したが、日本国民は友好的で、平和を愛し、多くの人たちは良識と誠意をもって両国の懸け橋を築き、中日両国人民の友好が世代代続くことを願っている。

訪問が終わって、私たちは手を振って別れを告げた。秋風の中、佐藤さんは声もなく、涙を流してたたずんでいた。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 中国に距離感がなくなった合宿セミナー

永井 敬子  
(団体職員：人材育成グループ)

近くにあるがなぜか距離を感じてしまう国。中国に対して最初に感じていた印象だった。

3日間の合宿セミナーでどれだけの交流が図れるのか、とても不安だった。しかしそんな心配をよそに初日から、彼らは私たちに積極的に話しかけてくれて、とても温かで友好的な人柄をじかに感じ取り、一気に中国に対する心の距離は縮まっていった。また、互いの文化や日常生活について話していくうちに、日本と中国の共通項がたくさん発見できた。悩んだり、喜んだりする気持ちはどの国でも同じなんだとつくづく感じ、もう中国という国に距離感をもたなくなっていた。

今回の合宿セミナーを通じて、中国はとても身近で大切な国の一つとなった。

#### 本音で語り合った合宿セミナー

小倉 正恒  
(会社員：経済開発グループ)

合宿セミナーの1カ月前、私は中国の友好団に参加し、現地の青年にとってもお世話になった。その感激がさめやらぬまま、今回ちょうどそれとは逆の立場で、来日するみんなと交流し、少しでも恩返しができるかと思い、参加した。

3日間という短い期間であったが、これからの日中経済のこと、環境問題のこと、そして結婚の話まで、振り返ると本当にたくさん話をした。日中関係はややもすると誤解と無知がお互いを遠ざけてしまうが、こうして一緒に酒を飲み、顔をつき合わせて本音で語り合えば、もう「朋友」だ!! そんな青年の言葉に思わず胸が熱くなった。

皆さん、次は中国で会いましょう!



## 4. ホストファミリーの思い出

### 国際交流への扉を開いて

角谷 美菜子  
(鳥取県：地域振興グループ)

今回のホームステイ受け入れは、私家族にとって初めての経験だった。私は以前から中国にとっても興味があった。そして、このような機会に恵まれ、大変感謝している。

霍さんに出会ってから私たち家族は、霍さんとの関係が深まるとともに、中国への理解も深まったと思う。霍さんと過ごした時間は、私たちにとって大変貴重だった。一緒に餃子を作って食べたり、大山に行ったり、家でゆっくり会話したりと、本当に楽しかった。

これをきっかけにもっと中国のことについていろいろと知りたくなった。そしていつか、霍さんに会いに中国に行こう、と家族で話し合っている。これからもこのような交流を続けていこうと思っている。

### 初体験

吉村 恵理  
(徳島県：産業基盤整備グループ)

初めてホストファミリーをすることになった私たちは、「普段通り」を合言葉に当日を迎えた。緊張する中、杜さんと握手を交わした。

杜さんは英語がたんに能で、日本語の挨拶も非常に上手だったので、緊張はすぐにほぐれた。会話の手段として、筆談や英語、8歳の息子はもっぱら笑顔で会話を膨らませていた。また、漢文を読んで三国志を語り、中国の歌を合唱したりして家中大いに盛り上がった。

最終日は、純和風で築80年の母の家に行った。彼は仏壇に手を合わせ、興味深く欄間、中庭などを見て回り、驚嘆したり、幾度となく全身で感動を表していた。

彼から、マスメディアからの情報以外の身近な中国、生の中国を学ぶことができた。また、生活を見直す良い機会も得られたと思う。



## 5. 実施協力団体の所感

### 相互理解の深まりを信じて

河崎 忠義  
(とっとり青友会：地域振興グループ)

地域振興というテーマは、国内・地元にとって最も重要な課題の一つであり、ましてや招へい青年にとって成果の上がるプログラムにできるか、大変な不安の中でプログラミングした。結果的に、包み隠しのない施策を見てもらうことで一貫させたのは大いに意義があったと考える。

温泉と国宝建築物を観光の目玉とし、地域振興に積極的な三朝町役場幹部との意見交換会では、お互いが行政担当者としての共通の話題で盛会となり、個人年収の話まで交わされた。評価会では招へい青年全員から「良」の評価をいただくなど、この種の研修としては非常に高い研修効果を実感した。多くの実務者が感じているとおり、相互研修がこれからの事業のポイントであると感じた。

### 研修は豊かさのプロセス

中野 直行  
(徳島県日中青年交流協会：産業基盤整備グループ)

私は青年のホームステイは、努めて農家をお願いする。農村には今も伝統や昔ながらの生活のたたずまいが残っているからだ。それでも、各家庭には高級自家用車や作業用のトラック、農業機械が並び、家の中には電化製品があふれている。その中で、青年は一人には広すぎる部屋で分厚い布団に寝かされ、自分は特別な家庭にホームステイしたのだと、疑心暗鬼だったかもしれない。

また研修で訪れる世界レベルのベンチャー企業の存在や人口比に対して立派過ぎるほどの公共施設は、青年たちの目にはどう映ったのだろうか。青年たちの中には、地方プログラムの体験を通して、日本の本質的な豊かさに気づく者も多いと思う。この地方の豊かさこそが、アジアにおける日本の特殊性だと思われ、その豊かさのプロセスこそが青年たちが求める研修にほかならない。





### Ⅲ. 中国初等中等青年教員招へい計画



# 1. 中国初等中等青年教員招へい計画

## 1-1 概要

### (1) 目的

「中国初等中等青年教員招へい計画」は、日本と中国の初等中等教育機関の教員の交流を通じ、21世紀に向けて、青少年交流の一層の発展のために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### (2) 実施方法

#### ア 招へい人数

120名

#### イ 招へい対象者

以下の分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 小学校教員 48名

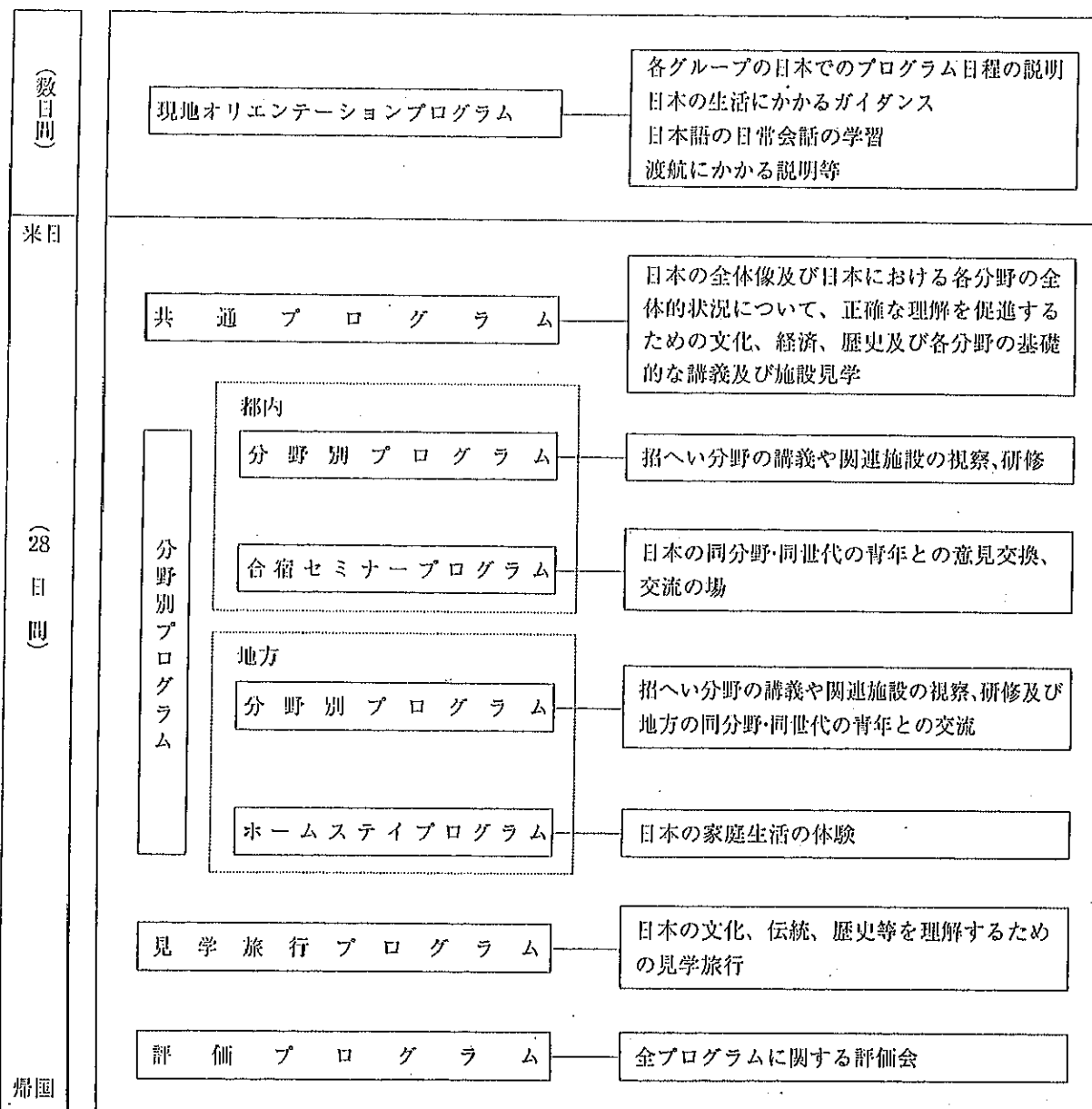
(イ) 中学校教員 48名

(ウ) 高等学校教員 24名

#### ウ 招へい期間

12月2日から12月22日までの21日間。

### (3) プログラム概要



### 1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
小学校教員 1	24	(社)青少年育成国民会議	富山	富山市民国際交流協会
小学校教員 2	24	(社)勤労厚生協会	福岡	(財)福岡県国際交流センター
中学校教員 1	24	(財)日本ユースホステル協会	香川	香川県海外派遣友の会
中学校教員 2	23	(社)日本中国友好協会	山口	(財)山口国際交流協会
高等学校教員	24	(社)国際善隣協会	岡山	岡山県世界青年友の会

\*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した

## 2. 招へい青年の印象

### まじめできめ細かな日本社会

王 運鋒  
(小学校教員1グループ)

日本人の責任感と仕事へのまじめな思いを物語る事例はたくさんある。例えば、プログラムを企画する場合はあらゆる可能性を想定する。集団行動が40分を超す場合はスタッフが前もってトイレを促してくれたりする。町全体、大通りも路地も道路が平らで整備されている。列車の車掌さんは車両を出入りする時、乗客が寝ていても必ずお辞儀をし、挨拶する。会議などが終わって、席を離れる際には椅子や机の設置を元どおりにする。これらの行動は、学校や家庭、社会による厳格な教育及び良好な社会風潮によるものと思われる。すべての人が高度な自覚と責任感を持って、まじめできめ細かな気配りができるゆえに、仕事の能率アップが実現し、社会進歩がスピーディーに図られ、環境の美化にもつながっているように思う。

### 着実できめ細かい日本人

王 麗媛  
(小学校教員2グループ)

訪日した最も大きな感想は日本の人々がどんなことに対しても非常に繊細で、着実で、計画に従って行動し、そして正確でミスがないことだ。日本ではよくこういう言葉を耳にする。

「再度確認してください」

私たちの行く各訪問先ではまずブリーフィングが設けられ、そして詳細資料が配付される。そこには毎日のやるべきことが書かれている。ミーティング時間が分刻みに正確に設定されている。また何に注意すべきかを教えてくれる。例えば、どんな服装をすべきか、風邪を引かないように暖かくすること等である。そのおかげで、私ども119人の訪日団員は訪日期间中に何のミスもなく日程を終了することができた。

私はこのような仕事のやり方が日本を世界の経済大国にした重要な要因ではないかと思う。

### 特色ある日本の「ゆとり教育」

雷 鴻  
(中学校教員1グループ)

日本は最も早くから教育を重視してきた国の一つである。歴史上義務教育制度の開始が早く、国民全体の資質が高く、各種教育関連施設が整っており、教育の発展のための良好な基礎が既に打ち固められている。時代の変化に伴い、従来の教育制度と従来型の方式は教育の科学技術化と情報化の流れにさらされている。こうした中、日本の教育関係者は早々に新しい教育理念を打ち出し、これまでの「詰め込み式教育」から「ゆとり教育」への転換を図り、生徒の生きる力の育成を目指す教育改革を進めている。小中学校では、国語、数学、外国語、公民、道徳など基礎教科のほか、理科、科学技術、

総合学習時間、芸術、技術家庭、情報、保健体育など、実践型の授業も充実しており、生徒の知識欲をかき立てる内容となっている。生徒は自ら実践し、体験することを通じて知識を学ぶ楽しさと生きる楽しさを味わうことができ、また、各学校も創意工夫をして、特色ある学校づくりを実践している。

## 民族的伝統を守り、民族的特性を追求する

孫 立権  
(中学校教員2グループ)

21日間の日本研修は日々目に触れ耳にするすべてが新しいという感じがした。日本の美しい環境、日本人の仕事に対する勤勉さ、挨拶や礼儀を大切にする国民性、日本の教育がかなり西洋化されている現状などに強い印象を受けた。しかしながら、最も深く感銘を受けたのは日本人が民族的伝統を守り、かつ民族的特性を追求することに全身全霊を傾注しているという感じを受けたことである。もしかしたら、日本人も欧米化のプロセスにおいて民族性が喪失されつつあることに気づいたために、上は政府から、下は民間に至るまで、自らの民族の本来あるべきものを求めているのかもしれない。歌舞伎観賞や友禅染め、大内塗体験の中でこの点を痛切に感じた。また、東大寺、唐招提寺の見学時に、政府の手でこれらの重要文化遺産を維持修復しているのを見て、日本人が自己の民族的伝統を重視し民族的特性を追求する姿勢を垣間見た思いがした。

## ここは永遠に春の暖かさに包まれている

袁 濱渤  
(高校教員グループ)

2001年12月14日9時10分、私は生涯忘れることのできない光景に出くわした。倉敷市立倉敷養護学校のスクールバスが学校に到着し、先生たちが知的障害をもつ子供たちに駆け寄り、次々と笑顔で出迎える様子は、まるで長い間会えなかった子供に再会する時のように熱烈で温かいものだった。知的障害をもつ子供たちは教師や家族に付き添われ、私たちの目の前に現れた。中には中国語で「ニーハオ」と挨拶してくれる子供もいた。教師と子供たちはまるで家族のように微笑ましく、そこには人間の最も美しい純粋な気持ちがあふれていた。見学の際、一人の知的障害をもつ女の子が校長先生を見つけるとすぐに駆け寄ってきた。校長先生が彼女を抱き上げると、女の子は校長先生の手にはキスをした。この瞬間、声なき感動的な場面に私は涙した。ここにいる子供たちは素晴らしい教育を受け、愛情にあふれた生活を送っている。この愛を感じ取って初めて、子供たちは人を愛することができるのである。子供たちの周囲が永遠に愛情で包まれ続けることを願っている。

中国に「自分の家のお年寄りと同じようによそのお年寄りも大切にする。自分の家の子供と同じようによその子供も大切にする」という古い諺がある。教師たるもの一人一人の生徒に親のような愛情を注ぎ、春のようなぼかぼかとした暖かさに満ち満ちた学校にしていきたいものである。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 言葉より勝るもの

浦 和美  
(教員：小学校教員1グループ)

今まで何度となく参加してきた合宿セミナー。母国語が違うとはいっても、英語でなんとかコミュニケーションを図ることができていた。しかし、今回の中国では、全く、といていいほど言葉が通じない。もっぱら、筆談となり、この時ほど漢字が書けてよかったと思ったことはなかった。このような言葉の壁も、ディスカッション、スポーツ、交流のタベと交流を重ねるうちになくなっていったように感じた。大切なのは、「分かり合いたい」と思う互いの気持ちだと。

国際化が叫ばれる今、コミュニケーションの手段を学習することも大切だが、それ以上に「相手のことを知りたい」という気持ちが何よりも勝ることを今回の合宿セミナーで感じた。

#### 今回の合宿セミナーを通して感じたこと

森山 光伸  
(日本語学校教師：中学校教員2グループ)

今回の合宿セミナーに参加して特に印象に残ったことは、日本でも中国でも教員は同種の問題を抱えている、ということだった。それは、学習者の健全な育成という点である。社会的な制度、それに伴う様々な違いはあるものの、基本的には両国とも教員の立場は共通であった。その点を確認し合えたことだけでも、今回の合宿セミナーは価値があったように思える。

また日本人の教員の中からも、今まで体験したどんな研修会よりも実りあるものであったという意見も多く出て、今後の国際理解教育の方向が見えてきた、という話も出た。

これも3日間、寝食を共にし、話し合い、感じ合った交流体験のおかげであると思う。今後もこうしたセミナーにぜひ参加したいと思う。

#### 聡明さとユーモア—明日の中国教育の人材

高松 美紀  
(教員：高校教員グループ)

バスの中での自己紹介は、中国語、英語、日本語が飛び交った。中国の先生方は聡明で、ユーモアに富み、車中はすぐ友好的な笑いに包まれた。食事や懇親会でも交流を深め、意見を交換し合った。

特にグループ討論や同室の先生との談話は有意義だった。学校制度は無論、学校生活や教育内容の認識など、日本と全く異なることに驚く一方で、受験競争の激化やゆとり教育の問題点など、同じ問題を共有していることに大変興味を引かれた。

政府資金によるこういう貴重な機会の効果を一層生かすために、準備を十分にやり、さらに深い話ができたらもっと良かった、と思った。

日中の参加者は良い思い出を作り、メールアドレスを交換し、再開を約束して別れた。

今回強く感じたのは、中国が教育改革に熱心に取り組み、実際大きく発展しつつあることだ。コンピュータ等設備充実に加え、あの先生方が優れた人材としてその原動力になることを思うと、いよいよ今後の中国のめざましい発展ぶりが期待される。日本も、よりよい教育のあり方を模索し、行政・現場とも地に足のついた改革実践をしなければと思った。

これからも両国の交流と理解が深まることを祈っている。



## 4. ホストファミリーの思い出

再見！ また、会いましょう

古川 真季子  
(福岡県：小学校教員2グループ)

ホストファミリーは今回で2回目である。ホームステイするのは、今回も中国の方だった。しかし、大都会の上海からということもあり、お互いに目立って違うところも感じられず、会話も何とか筆談と英語を用いて行うことができた。

子供たちも2回目のホストファミリーということもあり、少し成長したようで、積極的に話しかけ、いろいろな歌や遊びを教えてもらっていた。

あつという間に最終日となり、お別れということになったが、上海は福岡から近いということ、そしてメールアドレスを交換したので、これが一期一会という感じはしなかった。

「またね！」という笑顔でお別れすることができた。

少しの共通語とハートがあれば、世界中友達を持つことができる。このような経験を積み重ね、子供たち、そして私自身も成長できたらいいなあ、と思う。

初めてのホストファミリーを経験して

岡 聡美  
(香川県：中学校教員1グループ)

わが家にとって初めてのホームステイには、天津から数学教師の徐さんが来た。初日の夜は疲れているにもかかわらず、妹の数学の教科書に載っている問題をうれしそうに解いていた。そのうえ、三角関数を妹に教えてくれた。もちろん中国語だが、妹は「分かりやすい」と言っていた。言葉は通じなくても、相手のことを理解しようという気持ちがあれば、なんとなく通じるものだと、改めて実感した。

会話は筆談がほとんどで、家中のメモ用紙とノート1冊を使ってしまった。今から思うと、「ああ、あの時はこんな話をしたなあ」と思い返せて、楽しいノートになった。徐さんがホームステイしたことによって、三姉妹のわが家に新しく兄ができたような気がする。



## 5. 実施協力団体の所感

### 異文化共生の時代を…

小佐々 雅彦

((財)福岡県国際交流センター：小学校教員2グループ)

「ニーハオ！」

国際交流委員会の子供の声で始まった今回の玄洋小学校と中国青年教員による、今年度で2度目の交流会。

福岡らしさと玄洋小学校らしさ、そして日本の省エネルギーの取り組みなど、それぞれの学年のテーマに沿った授業と中国の先生方の誇りを持った交換授業を通して、本校の子供たちは、貴重な異文化体験をすることができた。

さらに、その後の「学校」「家庭」「地域社会」の3分科会に分かれてのシンポジウムでは、教師や保護者、地域の代表者などがそれぞれの立場から様々な意見交換ができ、実に意義深いことであった。

国境を超えた相互理解の場面に接し、これからの時代が、異文化共生の時代であることを確信した一日だった。

### 欢迎

佐藤 智也

(香川県海外派遣友の会：中学校教員1グループ)

綾歌中学校を訪れた青年たちを「欢迎」と中国語で書かれた2文字が温かく出迎えた。この日は、隣接する小学校を含め、一日かけてゆっくり視察した。授業参観では、生徒から中国についての質問があり、それを教壇に立って応答する青年たちの姿はりりしく、中国の偉大さすら感じた。

昼食は生徒と共に給食を食べていただいた。最初、お互いにちょっと緊張した様子だったが、そのうち筆談を交えて熱心に語り合っていた。発音は分からなくても漢字で交流ができる中国語、生徒はどう感じたのだろうか。生徒からは、中国についてもっと知りたいという声が多く聞かれた。子供たちの目が世界に向けられた瞬間、私たちの活動は実を結んだことになるのだろう。



# 青年邀请计划



# 前 言

“青年邀请计划”是国际协力事业团(JICA)对发展中国家所开展的技术合作的内容之一。邀请将来成为建设国家栋梁之材的青年来我国,并根据各专业进行为期一个月的访问活动。其目的在于了解各领域的实际情况,同时通过与民宿家庭等广泛交流加深相互理解,培育信赖关系与友谊。

被邀请的国家也从当初的东盟六国扩大到现在的一百二十三个国家、地区以上,自一九八四年本计划开始以来,十八年中应邀访问日本的青年达到二万三千二百五十六名。这与各方面有关人士的大力协助和热情支持是分不开的。在此,我谨向各位表示由衷的谢意。

本报告以访日青年、参加合宿研讨会的日本青年以及全国各地民宿接待家庭的各位感想为主,综合记录了访日青年的活动内容。如本报告能为本事业的进一步发展起到借鉴作用,并为各位留下一个美好回忆,我将感到不胜荣幸。本报告将寄给本年度所有应邀来访的青年和各国的有关人士留念。

最后,我再次向寄来热情洋溢的感想和宝贵意见的各位及有关方面人士表示深深的谢意,为使“青年邀请计划”的交流内容更富有意义,今后还望各位给予大力支持与合作。

国际协力事业团  
国内事业部  
部长 今津 武  
二〇〇二年三月





# 目 录

## 前 言

### 一、新中日青年友谊计划

#### 一、新中日青年友谊计划

1-1 概要 ..... 53

1-2 计划实施情况 ..... 54

二、应邀青年的感想 ..... 55

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ..... 57

四、民宿主人的感想 ..... 59

五、实施协助团体所感 ..... 61

### 二、新中国基层工作人员邀请计划

#### 一、新中国基层工作人员邀请计划

1-1 概要 ..... 65

1-2 计划实施情况 ..... 66

二、应邀青年的感想 ..... 67

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ..... 69

四、民宿主人的感想 ..... 71

五、实施协助团体所感 ..... 73

### 三、中国初等中等青年教员邀请计划

#### 一、中国初等中等青年教员邀请计划

1-1 概要 ..... 77

1-2 计划实施情况 ..... 78

二、应邀青年的感想 ..... 79

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ..... 81

四、民宿主人的感想 ..... 83

五、实施协助团体所感 ..... 85



# 一、新中日青年友谊计划



# 一、新中日青年友谊计划

## 1-1 概 要

### (1) 目 的

“新中日青年友谊计划”的目的是，为了面向21世纪，中日两国分享更好的未来、和平和繁荣、通过日本与中国青年的交流，增进相互之间的理解和信赖。

### (2) 实施方法

#### A 邀请人数

100名

#### B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20～35岁的青年

##### (i) 青年工作者 25名

青少年活动有关工作人员、大学职员、公务员、翻译

##### (ii) 经济青年 25名

企业等干部·职工、公务员、团体职员、新闻工作者、经济学者

##### (iii) 公务员 25名

除了其它三个分团领域以外的一般公务员、团体职员

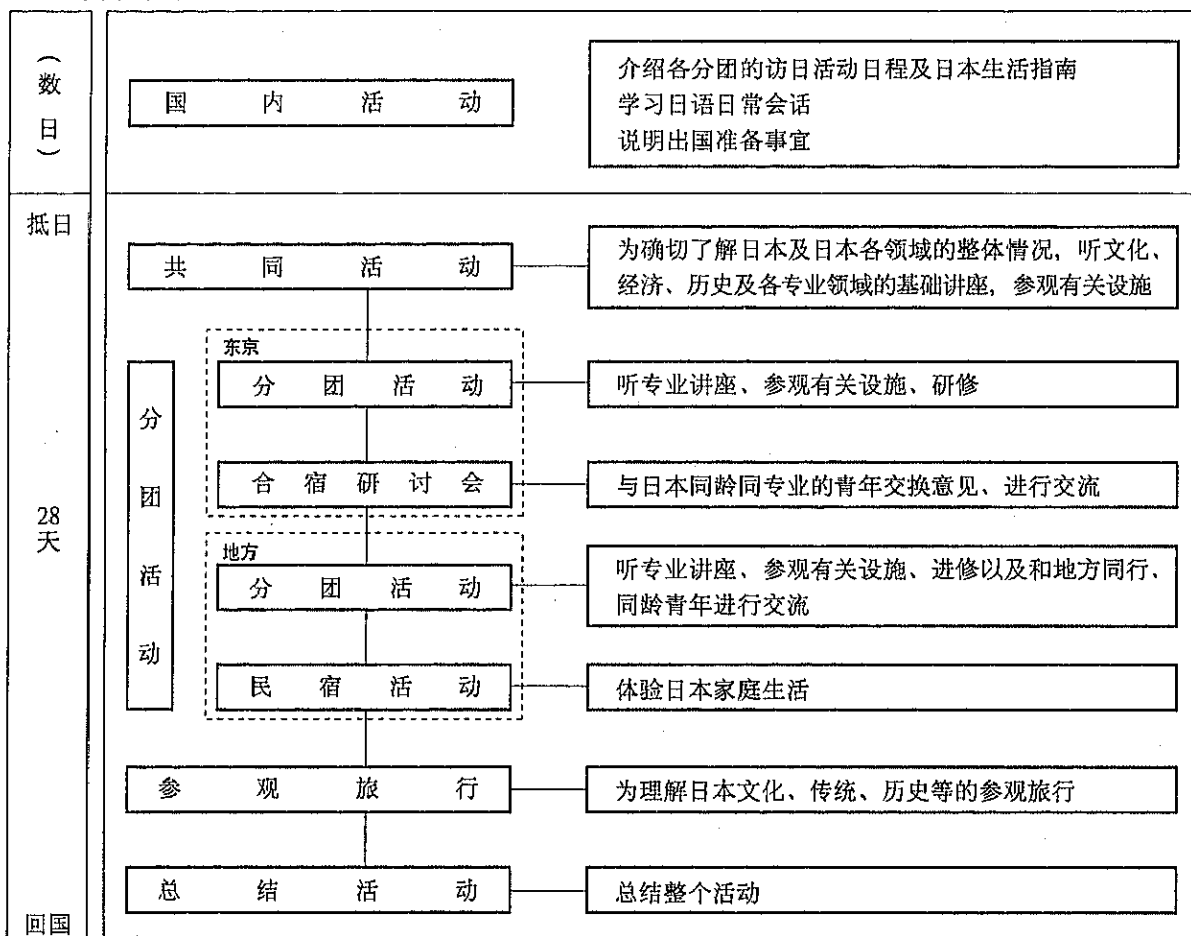
##### (iv) 教员 25名

教育机关的教员、教育有关的公务员

#### C 邀请日期

5月16日～6月12日 28天

### (3) 日程概要



### 1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	24	(社)青少年育成国民会议	高知	高知希望工程基金会
经济青年	25	(财)日本友爱青年协会	新潟	新潟县青年海外协力协会
公务员	25	(社)日本中国友好协会	富山	富山国际中心
教员	25	(财)青年工作者能力开发协会	滋贺	滋贺县青年团体联合会

\* 日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

## 二、应邀青年的感想

### 体验教育有感

叶卫红

(青年工作者分团)

在日本，随处可见为老弱病残者提供的各种方便设施，许多日本人主动热情地帮助着社会弱势群体。这种现象在我访问高知县 NPO 志愿者活动中心以后找到了答案。

在 NPO 中心，我和志愿者们体验了两眼昏花、手脚麻木、身体沉重给八十岁老人带来的不便，也体验了身体有疾的诸多痛苦，感同身受，设身处地，我想今后如果我在路上看到步履蹒跚的老人时，一定会很乐意地上前扶他一把，在日常生活中也会更加体谅残疾人的苦衷，为他们提供自己力所能及的帮助，这也许是体验教育特有的感染力和影响力——对老年人和残疾人生活的体验，能使人们更加珍惜生命、关爱他人、奉献社会。

### 我眼中的日本

周玉超

(经济青年分团)

日本人走路时节奏快，地铁、新干线等到站准时、到位，上、下车只有 1、2 分钟，反映出日本人有较大的工作、生活压力，同时也反映出日本社会是一个有良好秩序和较高效率的社会。

各企业普遍对环境保护采取了有力措施，投入了大量人力、物力，各地方政府对环境保护制定了积极的政策，反映出日本企业对环境保护有较强的意识。

在接待我们参观的企业中，负责接待工作的员工工作认真、规范，反映出日本企业员工有较强的敬业精神和团队精神。

对于兑换外币不方便，通讯产业与其他国家不兼容，也反映出在国际经济一体化进程中的不协调和日本人保守的思想。

回国以后主要介绍日本人的生活习惯，团队精神的培养和良好的环境。

## 标语与海沙

郭 东星

(公务员分团)

日本之行难忘之处甚多，“标语”与“海沙”两物作为中日友好之证物将永难忘记。阿姿莎、美姿给是接待我民宿主人的两个可爱的女儿。欢迎会上，她们举起精心准备的“热烈欢迎”和送别到站台上时她们举起的“谢谢郭东星先生，再见”的中文标语，像一面中日友好之旗，令我心中涌着阵阵热浪，倍感日本人民对中国人民的友好情怀。民宿两天，与日本家庭快乐相处。临别依依不舍，他们送了许多礼品给我，知道我非常喜欢海，民宿主人家诚昭博夫妇特意驱车到海边装了一小瓶洁净的细沙，精美包装后郑重地赠我。手捧海沙，我非常激动。这绝非普通的沙子，它是日本友人的深情厚谊。大海作证，中日友好世代相传！

## 日本纪行

杨 金花

(教员分团)

来日本二十多天的日子里，虽行踪匆匆，并有语言上的障碍，但日本在我心中还是留下了许多深刻而美好的印象。通过日本之行，我对日本人和社会有了更深入的了解。

日本不但经济非常发达，自然环境也非常优美。日本人很勤勉，办事很有效，并且讲究团队合作精神，这使我看到了日本民族的精神。日本的交通很发达，使人感到出行方便、舒适。日本人受教育的程度普遍较高，城乡几乎没有差异，人们的文明程度也普遍较高。作为资源较少的岛国，这里的人们环保意识非常强，日本将垃圾分类投放，从小培养孩子环保意识的经验值得中国人们学习借鉴。



## 三、参加合宿研讨会的日本青年的感想

### 作为同胞

椎 卓也

(公司职员：经济青年分团)

在轻井泽举行的为期三天的合宿研讨会期间，我亲身感受到了中国正在飞跃发展、不断前进的气势。由于他们属于经济分团，并且日中两国国家体制不同，因此我担心我们的讨论会成为空洞的理论。但实际上，他们真不愧是中国社会主义市场经济界的年轻干部，接人待物很稳重、言行开朗，这使我们之间建立了良好的信赖关系。

合宿第1天所进行的“一起包饺子”的活动使我亲身感到了他们所拥有的文化的深奥、细腻和大胆，分组研讨会也给我留下了同样的印象。因此，在我的脑海里，以往的“既近又远”的中国现在逐渐变成了一个如同兄弟般亲切的邻邦了。由此，我坚信，只要将这种交流活动进行下去，就能会解决摩擦、超越历史成为真正的同胞，并世代友好下去。

我结识了很多好朋友，并获得了宝贵的经验。

### 参加与中国公务员的交流活动

山本 实

(公务员：公务员分团)

我参加了一个日本公务员与中国公务员之间进行的研讨交流活动。参加这次活动的有茨城县以及市町村各级地方政府职员。研讨会的题目事先已定为关于公务员的工资、待遇，环境问题等。研讨会开得十分活跃。我能有机会参加此次活动感到受益非浅。

很遗憾，因为我们身为地方政府公务员，而不是国家公务员，有的讨论题目也许没能满足中国青年的希望。但，会场内自始至终充满了友好的气氛。由于时间有限，参观设施、举行交流宴会等都是匆匆忙忙的。不过，从另一个意义上来讲，如今想起来这些都成了美好的记忆。

我再提一件事，就是在这次活动中我拍了不少照片。我抓紧时间将所有的胶卷都洗好，并进行分类夹在相册里，然后赶到机场将它送给中国青年。有的青年给我寄来了感谢信。一想起这些我就非常激动。

我谨向在这次活动中不辞辛劳、不计名利始终支持此项活动的有关人员表示衷心的感谢。



## 四、民宿主人的感想

幸 会

北村 智江

(高知县: 青年工作者分团)

我家接待的客人是一位广西壮族自治区的青年干部, 名字叫潘雪红。她勤奋好学、聪明能干, 再加上她那富有闯劲儿的魅力使我们之间非常地融洽。星期六, 我们去附近的小学访问。她亲自表演向学生介绍了中国民族舞蹈, 与学生一块儿做游戏, 玩得十分愉快。

时而她问“太平洋的鱼大不大?”好, 那, 带她去高知新港那边钓钓鱼吧。时而她说“这种水果我从来没看过。”嗯, 那, 星期天陪她去集市让她亲眼看看吧。就这样, 我爱人和大儿子也兴致勃勃地各尽其能。果然, 这些接触使他们产生了信心。这种信心又在联欢会上以一种歌舞表演的形式体现出来了。

有时, 半夜她还边让我们看照片边和我们笔谈, 给我们介绍了她老家的情况。她尝了一口我做的鱼, 满脸笑容地对我说“很好吃”。与她一起度过的这段时光变为61亿分之1的幸会, 成为我们终生难忘的回忆。

临别那天早上, 她把家中包括浴室都录了像。一想到她回国后可能会介绍说“这就是日本老百姓的家庭情况”, 我心里就不免有点着急起来。我一家人都盼望着有机会能踏上中国的土地, 亲眼看看这片土地是怎样将她培养成一个如此富有魅力的女性的。

我高兴极了— Tanoshi-katta-desu —

大冢 昌彦

(滋贺县: 教员分团)

教育考察团成员的牙韩高先生是为参加新日中青年友谊计划抵达日本的。他被安排住在我家。虽然我们对于语言和习惯的差异有所不安, 但牙先生的热情却令我们对这三天终生难忘。

当看到牙先生对待我父母亲那种有礼貌的态度时, 不禁使我想起了人们已经将要忘却的一颗宝贵的心。因为牙先生本来是音乐老师, 我全家跟着他弹的钢琴唱了“红蜻蜓”、“四季之歌”等歌曲。这些歌都令我们时常想起牙先生。在联欢会上, 孩子们都相抱而泣希望能在一起多呆一些日子。如今对我全家来说, 中国已成了最令人感到亲切的国家, 我们一定要去看看。

笔谈时牙先生写下的“我高兴极了”这句话和他说的“Tanoshi-katta-desu”这句半生不熟的日本话至今记忆犹新。牙先生, 祝您身体健康, 后会有期, 再见。最后让我说一句“我高兴极了!”。



## 五、实施协助团体所感

### 日中友好的典范

前田 正也

(高知希望工程基金会：青年工作者分团)

日中友好的典范——这句话是最后一天晚上孙守刚总团长对我们工作的评价，同时也是对我们工作的鼓励。

这回我们根据“互相学习”的宗旨，给中国青年安排了在小学当一日老师和在女子大学围绕青年人文化这一问题与该校生进行交谈等活动。另外，关于环保问题让中国青年去工科大学听取一项由JICA主办的水资源管理研修课程的介绍以便加深他们对于日本最后的清流四万十川及其流域环境的保护措施（四万十方式）的了解。

通过每一个访问活动都让他们很有体会，如访问学校时受到了热烈欢迎，与该校生进行了文化交流活动，在福利设施学到了对待老人要设身处地为老人着想，参观了企业等等。这些活动给青年们带来了许多惊异和难忘的记忆。同时，我想这些在异国的很多经历会成为他们人生中宝贵的一页。

能使我们与中国青年结成终生友谊的主要原因：我们勇于承认过去所犯的错误，带着对中国人民的感谢之情，坚持日中两国优良文化的交流这一真诚的愿望。另一个是我们对中国孩子们踏踏实实地开展下来的教育援助活动。

目前，得到参加过本青年邀请计划的青年们的支持和援助，在青海省草原村正在建设一所希望小学。该项目已进展到很快就能见到草原村孩子们满面春风的程度了。这项活动能够得以实现全靠我们之间的相遇和建立起来的信赖关系。

地区接待单位多种多样。他们的共同点是使日中两国青年们通过在该地区进行的交流和研修活动在萍水相逢的两颗心之间构筑起一座21世纪的友谊之桥。我们希望今后也将通过这座右铭记世纪的友谊之桥，把日中青年之间的交流往来坚持下去。以孙守刚总团长所说的那句话作为一种鼓励，同时，不忘对大家的感谢之情。

## 萍水相逢的一星期

藤木 猛

(滋贺县青年团体联合会: 教员分团)

5月30日。我们满怀期待迎来了中国青年访日团一行25名。大家比我们想像的要精神，似乎没有多少疲劳的样子。因为滋贺县与中国湖南省是姐妹城市，知事也非常热情。有许多有关人员前来参加欢迎会，开始了中国青年们在滋贺县进行的活动。安排了他们去参加各个机构和中小学访问，以加强他们对滋贺县的教育情况的了解。特别是在教职员培训机构—综合教育中心青年们对于如何提高教员素质、能力似乎颇感兴趣，围绕培训内容和设备提了很多问题。因中国青年非常认真、热心，这自然而然让解释员讲得更加来劲。通过民宿活动，中国青年好像已成了日本的真正的家庭成员，充分体验了日本家庭生活，他们与民宿一家难舍难分的情景给我们留下了深刻印象。我深感，同样作为亚洲的一员，站在平等的立场上互相保持真诚的关系的重要性。同时，我们日本人已经将要忘却的他们那种肩负祖国重任、积极进取的态度，使我们十分激动。我们相约下次中国见，为他们送行了。

## 二、新中国基层工作人员邀请计划





# 一、新中国基层工作人员邀请计划

## 1-1 概 要

### (1) 目 的

“新中国基层工作人员邀请计划”的目的是，通过中日两国基层工作人员的交流，支援中国现代化建设，同时为了面向 21 世纪确立更加美好的中日合作关系，增进相互之间的理解和信赖。

### (2) 实施方法

#### A 邀请人数

100名

#### B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的 20 ~ 35 岁的青年

##### (i) 人材培养 25名

公务员、教员、团体职员、新闻工作者等

##### (ii) 经济开发 25名

与经济相关的公务员、企业工作人员等

##### (iii) 地区振兴 25名

省·自治区政府的地区开发方面的有关人员、团体职员等

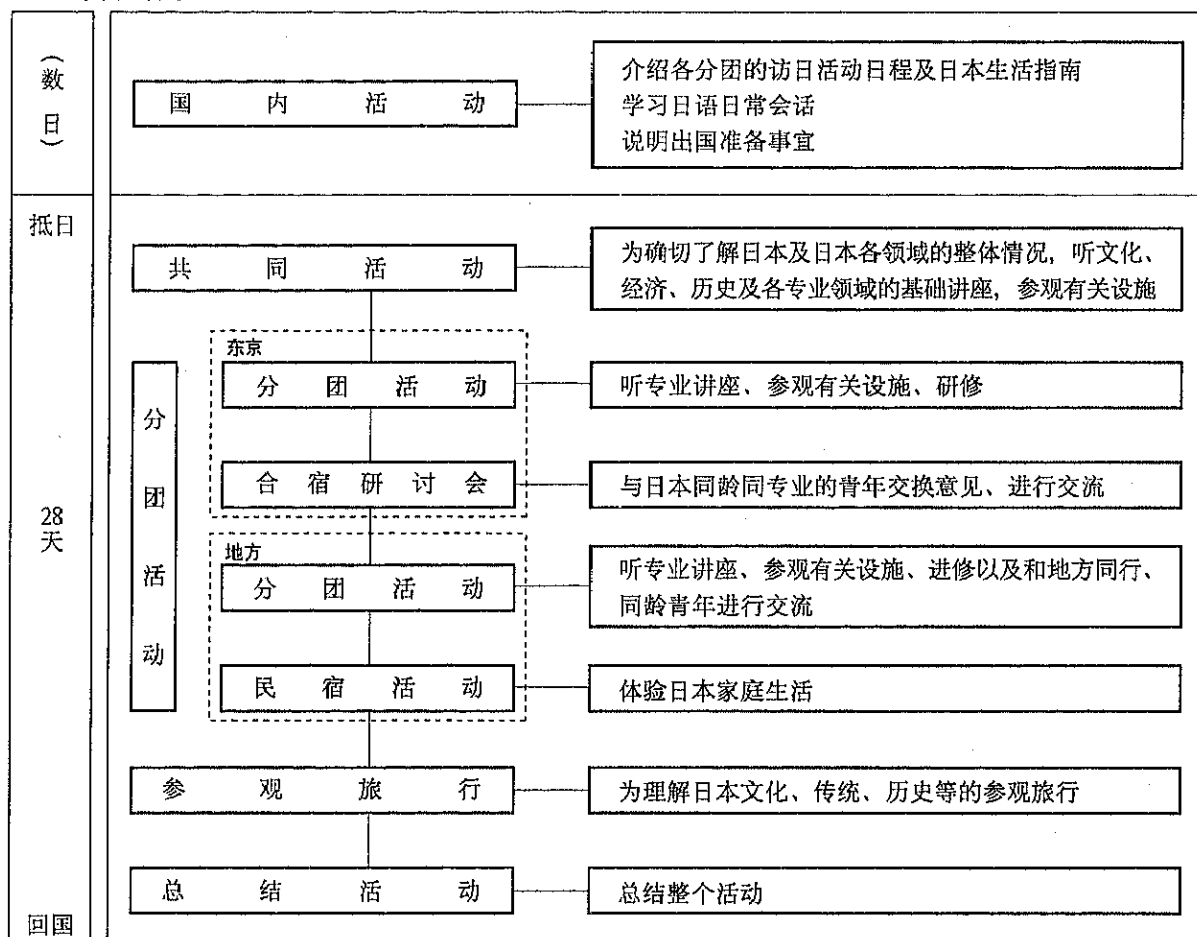
##### (iv) 产业基础设施建设 25名

国家计划、建设、贸易·财政方面的有关公务员等

#### C 邀请日期

10月17日~11月13日 28天

### (3) 日程概要



### 1-2 计划实施情况

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	(财)日本青年旅舍协会	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议
经济开发	25	(财)青年工作者能力开发协会	群 马	(财)群馬县国际交流协会
地方振兴	25	(社)青少年育成国民会议	鸟 取	鸟取青友会
产业基础设施建设	25	(社)国际善邻协会	德 岛	德岛县日中青年交流协会

\*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

## 二、应邀青年的感想

### 和平与友好是中日青年的共同愿望

贾 德忠

(人才培养分团)

日本各级教育机构的经费来源主要是政府拨款，这是教育立国的重要体现。严格的公务员采用制度、完备的全日制教育机制、企业研修培训机制和职业能力开发机制，为行政管理和经济开发提供了人才保障。NHK的教育频道、络绎不绝到和平公园参观的人群，体现了一种有效的社会教育形式。

中日两国共用汉字，许多方面相近的文化习俗，说明了两国人民的传统友谊。民宿、合宿活动则进一步加深了这种亲情。和平、友谊、交流、发展是中日两国人民、特别是两国青年朋友的共同心声。

### 重视教育尊重传统

潘 燕

(经济开发分团)

尽管早就知道日本的经济实力位居世界第二，但东京的现代与繁华还是超出了我的想像。我想，如此发达的物质成就绝非战后五、六十年的功劳，而应归功于其千百年来的民族性格积淀：勤勉、认真、坚忍，再加上自明治维新以来对教育的重视，使得这个国土狭小、资源匮乏的国家最大限度地发挥了人的价值，创造了罕见的经济奇迹，并以此赢得了世界的尊重。

日本人民对民族传统的热爱与执著也给我留下了深刻的印象，踩着木屐、穿着鲜艳的和服走在银座或新宿林立的高楼间，却丝毫不嫌做作，这真的让我感触良多，我想，没有那些氤氲在人与人之间的彬彬有礼及发自内心的对于仪式与传统的尊重，这种水乳交融般的和谐几乎是不可能的。

### 永远的朋友

吴 兢

(地域振兴分团)

“橋渡し”(桥梁)，这是我在日本民宿家的“欧卡桑”叫我的一句日语。当时，教书法的她让我写下了以上这句话，微笑着用英语向我解释：“中国和日本”，你和我们原家，心和心交流，永远的朋友，就是“橋渡し”！

在日一月，日本人民的友好与认真给我留下了深刻的印象。尤其是在鸟取县米子市民宿的两天三夜，更是成为我生命中珍贵的一页。原家的“欧卡桑”、“欧透桑”、久美子、阳子，每一位都是那么真诚、热情和友善。短短两天，我们亲如一家，令我终生难忘。

愿中日两国和人民永远是好邻居、好朋友！

## 佐藤老人

张 黎华

(产业基础设施建设分团)

访问四国大学时，我们遇到了一位身材矮小但精神矍铄的老人，她便是四国大学理事长，八十高龄的佐藤女士。在为代表团举行的午餐会上，佐藤女士动情地说，我为几十年前日本对中国犯下的错误忏悔，说着说着，老人的眼圈红了，大家分明看到老人的眼中泪光闪烁。我们深深地被老人的话打动着。一个普通的日本老人，一个与侵华战争完全无关的女性，却向我们表达如此沉重的忏悔。尽管战争给中日两国人民留下了难以愈合的创伤，但日本人民是友好的、热爱和平的，他们中的许多人，以他们的良知和真诚构筑着两国友谊的桥梁，祈望中日两国人民世代友好下去。

访问结束，我们挥手告别。秋风中，佐藤老人已是泣不成声。

## 三、参加合宿研讨会的日本青年的感想

### 参加合宿研讨活动

永井 敬子

(团体职员: 人才培养分团)

虽然很近,但却又觉得距离很远的国家,这就是我最初对中国抱有的印象。

我担心只有三天的合宿研讨到底能够进行多少交流。但是这只不过是杞人忧天而已。从第一天起中国青年们就主动地跟我们说话,使我感到他们的热情、友好一下子拉近了我与中国的距离。并且在谈到彼此的文化及生活习俗的过程中,我们发现了许多日本与中国的共同点。我深感任何国家的人都有他们的苦恼与喜悦,并他们的苦恼与喜悦在某种程度上与我们是一致的。这使我不再对中国有距离感了。

经过这次合宿研讨,对我来说,中国已成为非常亲切而宝贵的国家之一。

### 参加合宿研讨会

小仓 正恒

(公司职员: 经济开发分团)

在合宿研讨会的一个月之前,我参加了友好访华团,所到之处都受到了中国青年的热情接待。其激动还记忆犹新,我就又参加了与中国青年同吃同住的合宿研讨会,因为我希望通过这项交流活动向他们报恩。

三天的日子虽然很短暂,至今回想起大到日中两国今后的经济问题、环境问题等,小到结婚观,我们谈到了很多问题。他们异口同声地说:由于一点点的误会与缺乏相互了解日中两国之间往往产生隔阂,但这样互相敬酒交杯、促膝谈心我们就成了知心朋友了!这使我不由得非常感动。

中国朋友们,下次中国见!



## 四、民宿主人的感想

### 打开国际交流的窗口

角谷 美菜子

(鸟取县: 地区振兴分团)

接待外国客人来家住宿, 对我家来说, 这是头一回。我早就对中国感兴趣。这次能有这么一个好机会, 我觉得非常庆幸。

自从霍先生到了我家以后, 随着我一家与霍先生的不断的接触, 我全家对中国的了解似乎也逐渐加深了。与霍先生一起度过的每一刻时光, 对我一家来说都是很宝贵的。一起包饺子啦, 一起去爬大山啦, 还有在家里悠闲自在地聊天啦, 我们过得很愉快。这次经历使我更多地想去了解中国。现在我全家时常谈起什么时候有机会去中国再见霍先生一面。能有这种机会真是太好了。我希望这样的友好交流今后也将能够进行下去。

### 第一次当房东

吉村 惠理

(德岛县: 产业基础设施建设分团)

接待外国客人来我家做客, 对我家来说, 这是第一次。我们一家以让客人体验我家的日常生活为接待标准迎接了那天的到来。在紧张的气氛中, 与杜先生握了手。

由于杜先生很会英语, 而且他日语的寒暄话也说得很好, 很快就化解了紧张情绪。我们沟通的手段是笔谈和英语, 而八岁的儿子虽然只能用笑容与他沟通, 但他们好像却创造了更融洽的气氛。我们有时一起念中文, 谈三国演义, 也有时一起唱中国歌, 过得十分热闹。最后一天, 我们陪他去我娘家。这个房子已有 80 年的历史, 算是一所日本式建筑。他向佛龕合掌, 然后兴致勃勃地看遍了格窗、院子等古色古香的房屋。他直用全身来表达心里的感动。

我们从他那里学到了通过媒体所不能学到的真正的中国的知识。同时, 这次体验也成了我们再一次深思我们生活习俗的一个好机会。





## 五、实施协助团体所感

### 坚信能够加深相互理解

河崎忠义

(鸟取青友会：地区振兴分团)

地区振兴这一课题不仅对全日本来说，就是对各个地区来说也是非常重要的。在这次接待地区振兴分团之际，我们将所有的力量投入到安排工作上。可是心里总不免担心能否满足他们的希望。

实际上，我们不加掩饰地让他们亲自考察我们地区的真实情况，并把这一方针落实到整个日程当中。我们感到这是很有意义的。我们安排他们洗温泉，参观国宝级建筑物，以此作为观光活动的重点。我们还安排他们与三朝町役场帆干部们进行交流。由于三朝町正在积极推行地区振兴政策，并日中两国青年都身为行政负责人，所以他们谈话所涉及的内容非常丰富。其结果是，在总结会上我们得到了全体成员的高度评价。这使我们感到这次日程安排工作获得了圆满成功。

正如很多基层工作者认识到的那样，我们也亲身感到相互学习是今后交流事业的基石。

### 摸索走向富裕之路

中野直行

(德岛县日中青年交流协会：产业基础设施建设分团)

我经常尽可能选出些农户来作为青年的民宿家庭。因为农村至今仍然保留着以往的生活习俗。虽然是农村家庭，但几乎每个家庭都拥有高档汽车、农业用的卡车和各种农业机器，并且家用电器也应有尽有。在这样的家庭中，民宿主人会为青年提供一个人住会觉得过于宽敞的房间和舒服的被褥。有的青年也许会以为这个家庭不是普通的，而是特别的家庭。另外，青年们去参加的乡下的风险企业，这些企业居于世界领先水平及按人口来看好像过于奢侈的各种公共设施，他们对这些有什么感想呢？我想，有不少青年通过在地区所进行的活动会发现日本的富裕所在。日本的地区生活丰富而富裕，我想这就是日本与其他亚洲各国的不同点，走向富裕的路程，这才是青年们希望学得的。



### 三、中国初等中等青年教员邀请计划



# 一、中国初等中等青年教员邀请计划

## 1-1 概 要

### (1) 目 的

“中国初等中等青年教员邀请计划”的目的是，为了面向 21 世纪，通过中日两国初等中等教育机关和教员的交流，进一步促进青少年之间的交流，增进相互之间的理解和信赖。

### (2) 实施方法

#### A 邀请人数

120 名

#### B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的 20 ~ 35 岁的青年

(i) 小学教员 48 名

(ii) 中学教员 24 名

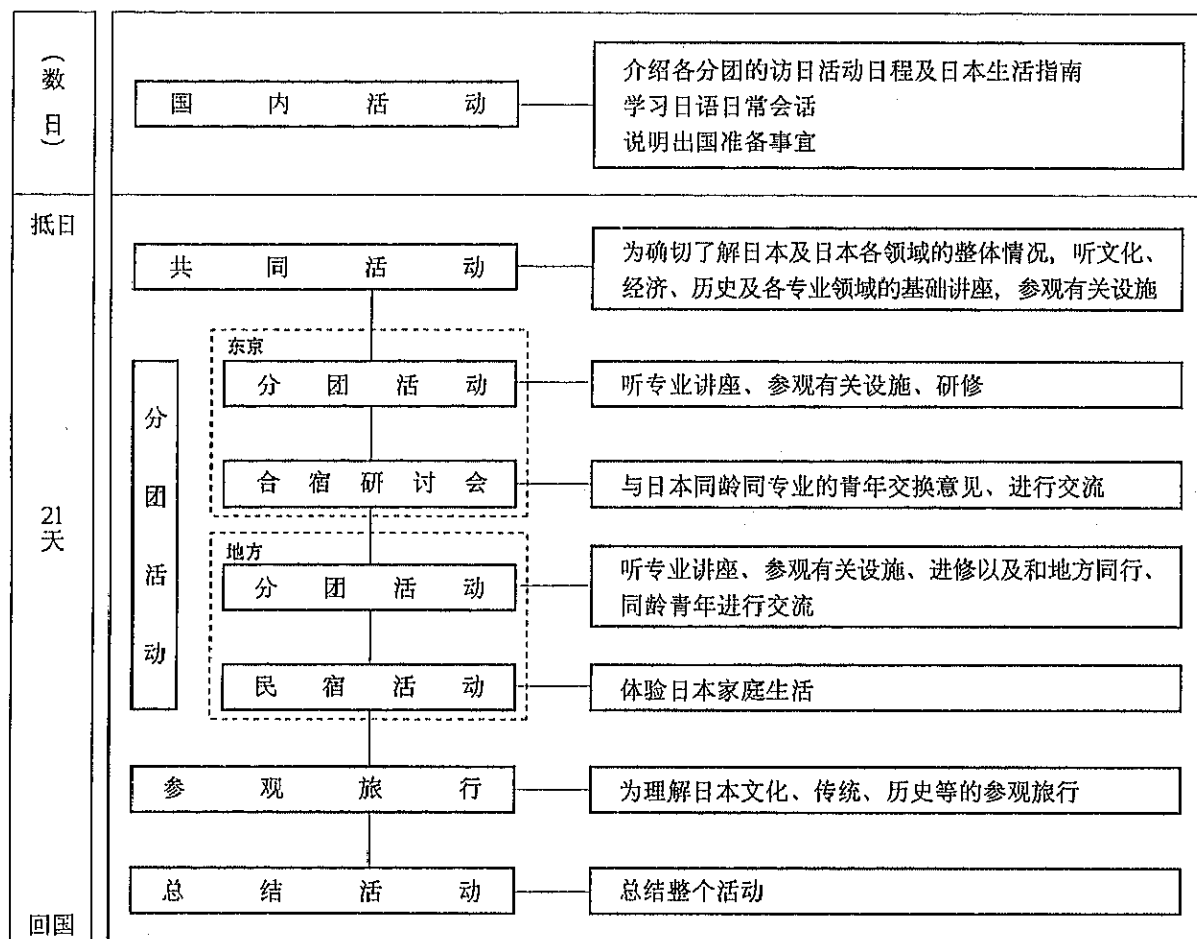
(iii) 高中教员 24 名

(iv) 教员 24 名

#### C 邀请日期

12 月 2 日 ~ 12 月 22 日 21 天

### (3) 日程概要



### 1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
小学教员 1	24	(社)青少年育成国民会议	富山	富山市民国际交流协会
小学教员 2	24	(社)勤劳厚生协会	福岡	(财)福岡县国际交流中心
中学教员 1	24	(财)日本青年旅舍协会	香川	香川县海外派遣朋友会
中学教员 2	23	(社)日本中国友好协会	山口	(财)山口国际交流协会
高中教员	24	(社)国际善邻协会	岡山	冈山县世界青年朋友会

\*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

## 二、应邀青年的感想

### 认真、细致的日本社会

王 运锋

(小学教员1分团)

许多事例可以反映出日本人做事的负责和认真态度。例如，制定工作计划，会把所有可能发生的情况都考虑到；团队集中活动的时间超过40分钟，服务人员就要提醒大家预先上洗手间；日本的大街小巷，即使是角落里，路面也非常平整；列车上的乘务员经过车厢时，即使乘客都在昏昏欲睡，他也要鞠躬问候；开会结束时，大家主动把桌椅等设施摆放整齐。我想，这要归结于严格的学校、家庭、社会教育和良好的社会氛围，因为每个人都有高度的自觉性、极其负责的态度和细致、认真的习惯，工作效率就大大提高了，社会进步就大大加快了，环境也就使得更加美好。

### 踏实、细致的日本人

王 丽媛

(小学教员2分团)

我访日的最大感受是：日本人民做任何事情都特别细致，很踏实，按计划行事，喜欢准确无误，在日本，会经常听到这样一句话：再确认一下……。

我们每到一处访问，都会先有一个说明会，发详细材料，讲解每天做什么，时间精确到几分，并提醒大家注意什么。例如：穿什么样的服装，是否带雨伞，注意保暖，免得感冒，在路上有多少时间，适当休息等等，这样，保证了我们119人的访日团，在访日期间无丝毫差错。

我想，这样的做事态度，也是日本成为世界上经济强国的一个重要因素吧！

### 日本的“宽松式”教育具有一定特色

雷 鸿

(中学教员1分团)

日本是最早重视教育的国家之一，义务教育的起步很早，国民素质普遍提高，教育的各项设施都具有规模，教育的发展已具有良好的基础。随着时代的变迁，传统的教育体制和模式受到教育科技化、信息化的冲击，日本教育家们及时提出新的教育观念，进行教育改革，从以往的“填鸭式”教学，向“宽松式”教育转化，培养学生的生存能力。小学、中学除了普通基础教育，如：国语、数学、外语、公民、道德等以外，理科、科技、综合、艺术、家庭技术、信息、保健、体育等实践课开展得有声有色，知识的趣味性浓厚，学生真正投入到实践中，体验自己，既有知识的乐趣，又有生活的乐趣，不同学校有不同风格，不同特色，不同的品牌。

## 维护民族传统，欲求民族品性

孙立权

(中学教员2分团)

赴日研修二十一日，每日皆有耳目一新之感。诸如日本环境之整洁，日本人工作之勤奋，日本人之寒暄客套，日本教育西洋化之严重，都给我留下很深刻的印象。但让我感触最深的东西是日本人在维护民族传统、欲求民族品性的实践中尽心竭力的形象。大概日本人也意识到在欧美化的进程中民族自性的缺失，所以从政府到公民都在寻求自己民族的东西。我在观赏日本歌舞伎、友禅染、大内涂的活动中深切地感受到这一点。参观东大寺、唐招提寺时，看到政府正在维修这些重要的文化遗产，这更使我看到日本人对自己民族传统的重视，对自己民族品性的追求。

## 这里永远是春天

袁滨渤

(高中教员分团)

2001年12月14日9点10分，在这一刻，我看见了一幅让我终身难忘的画面：当仓敷市立仓敷养护学校的班车抵达学校后，只见该校的老师们一个接一个，带着微笑跑出来去迎接那些智障的学生，象迎接久别重逢的孩子那样充满了热切的盼望。这些智障儿童在老师和亲人的护送下来到了我们面前，有些学生甚至用汉语“你好”和我们打招呼，师生像相亲相爱的一家人，人间最美好的挚情已融入其中。参观时，一名智障女孩看见该校校长，很快就跑过来，校长立即把她抱了起来，小女孩拿起校长的手吻了一下，此时无声胜有声，我流泪了，我被深深地感染了。这些儿童享受了很好的教育，生活、学习在充满爱的氛围中，只有感受到爱才能学会爱，愿他们周围永远散发着爱的芬芳。

中国有句古语：老吾老以及人之老，幼吾幼以及人之幼。作为教师应把亲子之情遍施给每个学生，让每一座校园都春意盎然。



## 三、参加合宿研讨会的日本青年的感想

### 胜过语言的东西

浦 和美

(中学教员: 小学教员1分团)

合宿研讨会——我曾参加过好几次了。我以前参加的研讨会，每个参加者母语各不相同，但总算可以用英语进行交流，并且达到了沟通的目的。然而，这次却完全行不通。这么一来，只能靠笔谈。我为自己能写汉字而感到庆幸。但是，我感到随着讨论、体育活动和联欢会等活动的进行，这种语言障碍似乎就不存在了。从此我体会到关键在于是否愿意去理解对方。

在国际化的倾向越来越明显的当今，这次活动使我认识到掌握沟通工具当然是重要的，但更重要的是要有了解对方的愿望。

### 参加合宿之感

森山 光伸

(教员: 中学教员2分团)

参加这次合宿活动让我感受最深的是，日本也好，中国也好，教员都抱有同样的问题，就是如何使学生健康地成长。虽然社会制度不同，并还有一些与社会制度有关的各种差异，但，两国教员的出发点是相同的。我觉得，只这一点就非常有价值。

日本教员当中也有不少人说这次研讨会比以前曾参加过的任何研讨会收获都大。也有的教员说觉得摸索到一些国际理解教育的方向。这些都是我们一起食宿、促膝谈心、互相接触的为期三天的交流活动的成果。我愿意今后也能有机会再一次参加这种交流活动。

### 中国同仁的才智与幽默肩负着中国教育的明天

高松 美纪

(高中教员: 高中教员分团)

在车上，每一个人都用尽各自所有的语言能力做了自我介绍，有的用中文，有的用英文，也有的用日文。中国老师们都很聪明、富有幽默感，车上很快就充满了友好的笑声。用餐的时候，联欢会上我们都抓住机会加深交流、彼此谈心、交换想法。

尤其是分组讨论会和与同住的老师的谈话使我受益非浅。使我吃惊的是：学校的制度、活动和教学内容都与日本完全不同。而使我感兴趣的则是：日中两国都面临着同样的问题。这就是升学竞争激烈、宽松的教育即教育不严所引起的问题等等。

凭借政府资金来开展的这种交流活动实在是非常难得的。我想，如果事先做好充分准备的话，就能更好地达到交流的目的。日中两国参加着都留下了美好的回忆，临别时人们互相交换邮址，并相约有机会再见。

这回我们强烈地感受到中国正全力以赴推行教育改革，并确实得到了很大的发展。中国电脑等教学设备会更加完善，同时这些老师们又将会成为优秀的人材，考虑到这两点，我们就可以期待中国今后将会取得更大的进步。我们迫切地感到日本也应该探索出更好的教育方法，行政、教育现场两方面都要脚踏实地地贯彻、落实教育改革。愿今后日中两国的友好交流和相互理解更加深入。

## 四、民宿主人的感想

再见！愿有机会再见！

古川 真季子

(福冈县：小学教员2分团)

接待外国人来我家做客，这回是第二次了。这回客人也是中国人，她是上海人，上海是个大城市所以她所在的地方与我们的居住环境并没有特别大的差异。而会话也用笔谈和英语进行得比较顺利。

对我的儿女来说，接待外国客人也是第二次了。他们似乎成长了些，积极地与她聊天儿，从她那里学到了各种歌曲和游戏。

时间过得很快，很快就到了最后一天分手的时刻。因为上海离福冈不远，并且我们互相交换了邮址，所以临别时，我没有再也见不到对方的感觉。我们彼此说“下次见吧！”笑着告别。只要略懂一点语言和有一个与对方交流的愿望，你就能够结识世界各国的朋友。我愿意，通过这种活动积累经验不断地提高我儿女及我本身。

### 首次接待外国人来家做客

冈 聪美

(香川县：中学教员1分团)

来我家住宿的是来自中国天津的数学老师徐先生。第一天晚上，他虽然很疲劳但仍然看了我妹妹的数学课本儿，并做了课本儿上的习题。他还教了妹妹三角函数。当然是用中文做的解释，但听妹妹说，他讲得很好理解。这使我再一次感到，即使语言不通，但只要想理解对方，彼此就可以进行沟通。我们的会话基本上都靠笔谈，结果我们竟用尽了家中的便条纸和一本笔记本。现在翻开这些笔记，就会使我们想起与他聊天的情景。这些笔记已成了我们的宝贝了。只有三个姐妹的我家，如今多了个大哥哥。



## 五、实施协助团体所感

### 超越文化差异共同前进

小佐佐 雅彦

(财团法人福冈县国际交流中心：小学教员 2 分团)

玄洋小学与中国青年老师们的交流活动，这回是第二次了。由国际交流委员会的孩子们发出的“你好！”声宣布了这次活动的开始。

接待中国青年向他们介绍福冈县的特点、玄洋小学的特色以及孩子们在日常生活中进行的节能活动，这使该校生接触到了外国人以及异国文化。我们还分成学校、家庭、社区三个小组展开了讨论。参加者有老师、家长和社区委员等，身份不同的人通过这次活动交换各自的想法，这是一件很有意义的事。

看到国籍不同的两国人民进一步加深相互理解，使我确信今后我们将应该超越国籍、文化的差异，构筑起相互信赖、共同前进的友好关系。

### 欢 迎

佐藤 智也

(香川县海外派遣朋友会：中学教员 1 分团)

我们陪同中国青年去绫歌中学访问。一进门，用汉字写的“欢迎”这两个字就映入了我们眼帘。使我们感到学生们的热情。那天，我们花了整整一天的时间参观了该中学和与它相接的小学。参观上课时，学生们向中国青年提了很多问题。中国青年站在讲台上——做了回答，他们那镇静自若的样子使我们感觉到中国的伟大。我们还安排他们在教室里与学生们一起吃学校提供给学生们的午餐。开始的时候，他们似乎彼此有点紧张，但不久就用笔谈等方式津津有味地开始进行交流。虽然不会说汉语，但可以写汉字来沟通，学生对此有什么感受呢？学生们都希望能够得到更多的有关中国的知识。学生的目光投向世界的那一瞬间，可以说是我们的活动获得了成功。



---

青年招へい事業 -中国- [交流レポート](2001)

平成 14 年 3 月 31 日

発行 国際協力事業団国内事業部研修業務課

〒151-8558 東京都渋谷区代々木 2 丁目 1-1

新宿マインズタワー

電話 (03)5352-5401～3

編集 (財)日本国際協力センター国際交流部

〒163-0489 東京都新宿区西新宿 2-1-1

新宿三井ビル

電話 (03)5322-2571

---

無断転載を禁じます。

